

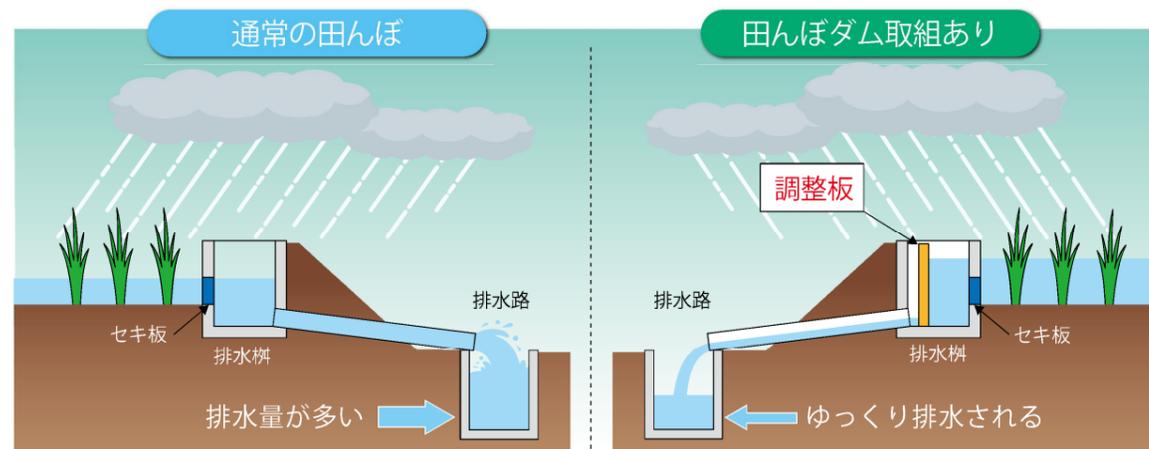
田んぼダムの取組の実施計画

田んぼダムの目的と概要

近年、洪水などの豪雨災害が頻発・激甚化していることを受けて、従来の治水対策に加えて流域全体の関係者が協働で取組む「流域治水」が全国で推進されています。このなかで、水害の防災、減災に貢献する「田んぼダム」の取組が注目されています。これを踏まえて、農林水産省では田んぼダムの手引きを作成し、石川県では田んぼダムのリーフレットや広報動画等を作成して、普及・推進を行っています。

「田んぼダム」とは

- 田んぼの雨水を貯める機能を最大限に活用した取組です。
- 排水柵に流出量を抑制する調整板を取り付けます。
- 田んぼに降った雨を一時的に貯留し、時間をかけてゆっくり下流に流すことで流出量を抑えます。
- 作物の生産には影響のない範囲で取組みます。
- 地域全体で田んぼダムに取組むことで、地域のピーク流出量を抑え、洪水被害の低減が見込まれます。
- 取組面積が大きいほど抑制効果が期待できます。



出典：田んぼダムの取組 リーフレット (石川県農林水産部農業基盤課)

図1：田んぼダムのしくみ

田んぼダムの取組の背景

本市では、水害の防災、減災を図る「流域治水」が推進されており、各種計画で田んぼダムが位置付けられています。

「金沢市総合治水対策実施計画」では、治水対策の整備目標である計画降雨50mm/hrと、流域治水対策の整備目標5mm/hrのほか、土地利用対策と減災・水防対策を基本計画としており、田んぼダムは土地利用対策に位置づけられています。

また、「未来共創計画」において、市民との協働による流域対策の強化として、**田んぼの雨水貯留機能の活用（田んぼダム）**が掲げられています。

これらを受けて、田んぼダムの取組を推進するための具体的な実施計画を策定します。

土地利用対策	土地利用対策における具体的な取組事項
	・農地の保全・活用、遊休農地の解消 （田んぼダムの取組を含む） ・緑の保全・活用 など

出典：金沢市総合治水対策実施計画 (2019年3月、P1-2より)

市民との協働による流域対策の強化

局地的な大雨等に伴う浸水被害を防ぐため、市民が行う雨水貯留浸透施設の設置を支援するほか、営農者との協働による「田んぼダム」の取組を推進するなど、市民との協働による流域対策を強化します。

主要事業	前進期 (R6~7年度)	充実期 (R8~11年度)	発展期 (R12~15年度)
雨水貯留浸透施設の設置促進	推進		
田んぼの雨水貯留機能の活用	実施地域選定・計画策定 モデル実施	本格実施・地区拡大	

出典：金沢市 未来共創計画 (2025年2月、P143より)



写真1：八田町地内での田んぼダム試行の様子 (R7.6.26撮影)

取組方針

【優先地区】

- ・生産組合や土地改良区等の協力が得られたところから順次、金沢市が調整板を設置します。
- ・田面積の50%以上（※1）での設置を目指します。

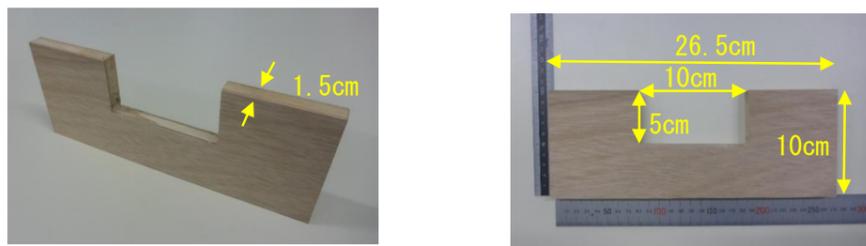
【優先地区以外】

- ・取組を希望する生産組合や土地改良区等に調整板の支給を行います。

※1 農林水産省の多面的機能支払交付金の田んぼダム加算措置の要件を参考

《調整板について》

- ・石川県作成の田んぼダムの手引きにより、有効と判断された調整板を使用します。



出典：「田んぼダム」の手引き（石川県農林水産部農業基盤課）

写真2：調整板

計画年次

優先地区における計画年次は、令和8～12年度までの5年間とします。

（R8八田地区、R9大場地区、R10大浦地区、R11木越地区、R12才田地区）

※地区の名称は、図2に示す各範囲を総称する呼称として記載

表1：5か年の実施計画

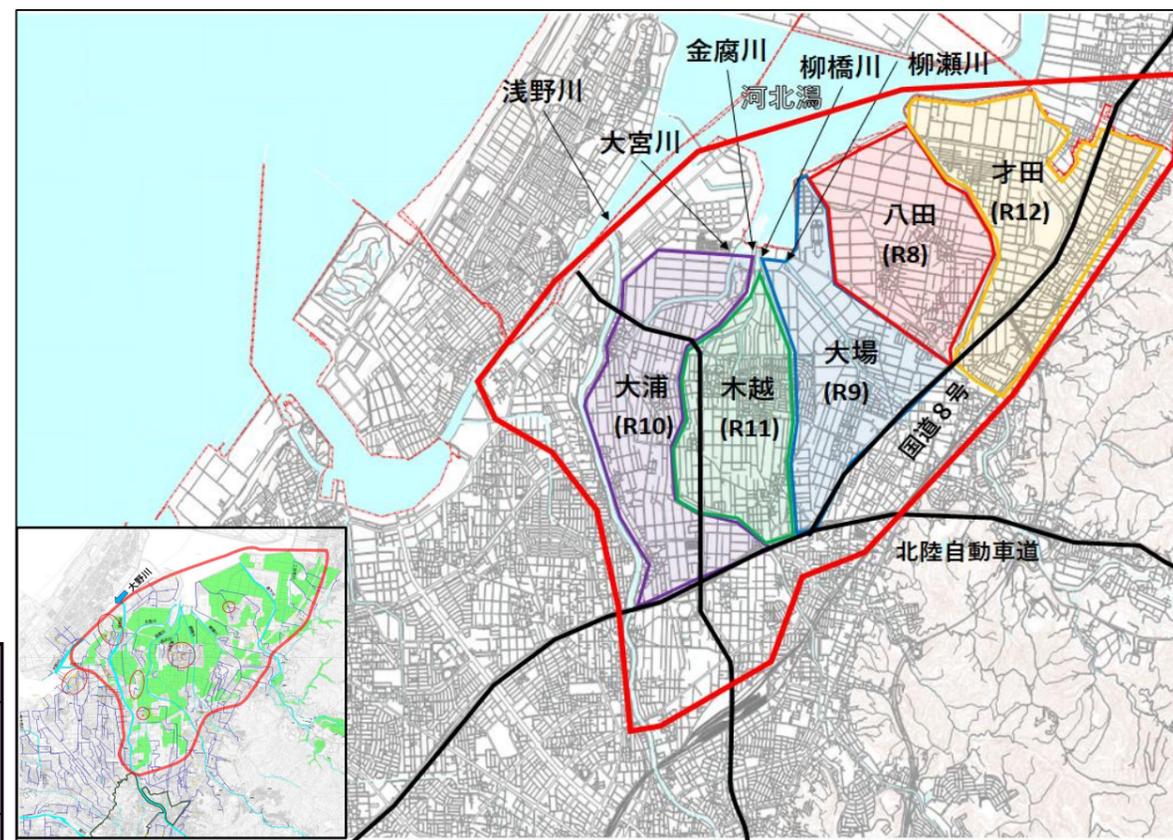
事業内容	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年以降
田んぼダムの試行	八田町地内での試行、アンケート調査実施						
田んぼダムの推進事業（優先地区）		八田地区	大場地区	大浦地区	木越地区	才田地区	その他周辺地区へ取組を拡大
研修会の開催（優先地区等）		田んぼダムの研修会（金沢かがやき発信講座等）					
田んぼダムの推進事業（優先地区以外の市内全域）		取組希望者に調整板を支給					

田んぼダムの優先地区の選定

【河北潟周辺を選定した考え方】

- 近年に発生した浸水被害は、河北潟周辺地域に多く分布しています。
- 河川が河北潟に集中して流れ込んでおり、周辺地域には一団の水田が広がっています。
- 田んぼダムは流域治水対策の手法の一つであり、実施面積が広く、一団にまとまった水田であるほど効果を発揮します。

上記の理由から、河北潟周辺地域で優先的に「田んぼダム」の取組を推進していきます。また、取組地区選定にあたり、各地区毎に「①流域に対する水田割合、②浸水実績の程度、③田んぼダムによる被害区域の解消有無、④排水機場の有無」の4つの指標をもとに検討し、効果の高い順に取組んでいきます。



※緑色は農業振興地域農用地

凡例

— : 田んぼダム実施地域選定範囲

図2：優先地区の選定

八田町地内の試行でのアンケート結果

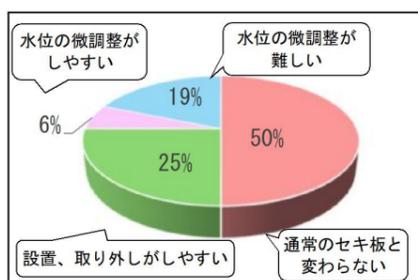
令和7年度に田んぼダムの試行を実施した八田町地内において、取組を行った農家を対象にアンケートを実施しました。

※アンケート概要 対象者：八田町地内の12名の農家（計14筆）を対象
回収率：配布数14、回収数14、回収率100%

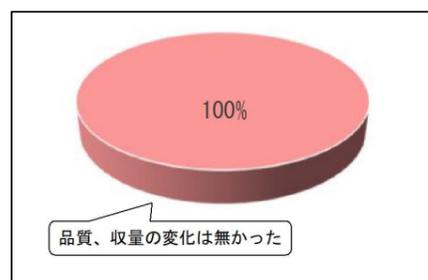
表2：アンケートの質問内容と主な結果、意見

内容	主な結果、意見
使用した調整板について	・取り扱いのしやすさは問題ない ・水位の微調整がしづらい
作物の品質、収量への影響	・作物の品質や収量に関する影響は見られなかった
水管理への影響	・水管理の手間は従来と変わらなかった
降雨時の影響	・田んぼダムの取組による影響はなかった ・降雨時に周辺の排水路の水位が低下した

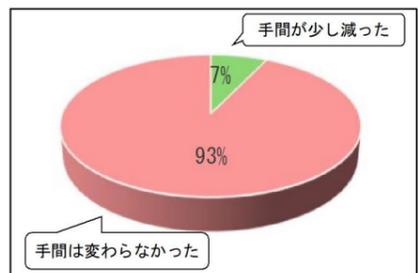
問 通常のセキ板での水管理と比べて、調整板の扱いやすさはどうでしたか？



問 田んぼダムに取組んだ田んぼは取組んでいない田んぼに比べて品質や収量は変化しましたか？



問 調整板を設置したことで、取水や排水等の水管理の手間は変わりましたか？



問 降雨時に調整板を設置していたことによる影響はありましたか？

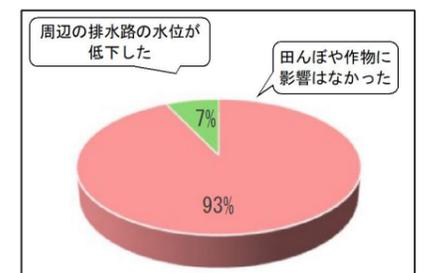


図3：アンケート結果(抜粋)

田んぼダムの効果（シミュレーション）

農林水産省の水田流出簡易計算プログラムを用いて、八田地区で田んぼダムに取組んだときの湛水被害軽減効果を算定しました。

その結果、下図のとおり田んぼダムを50%取組んだ場合には、湛水量が約4.1万m³（約36%）減少し、湛水被害の軽減に一定の効果があることが明らかになりました。

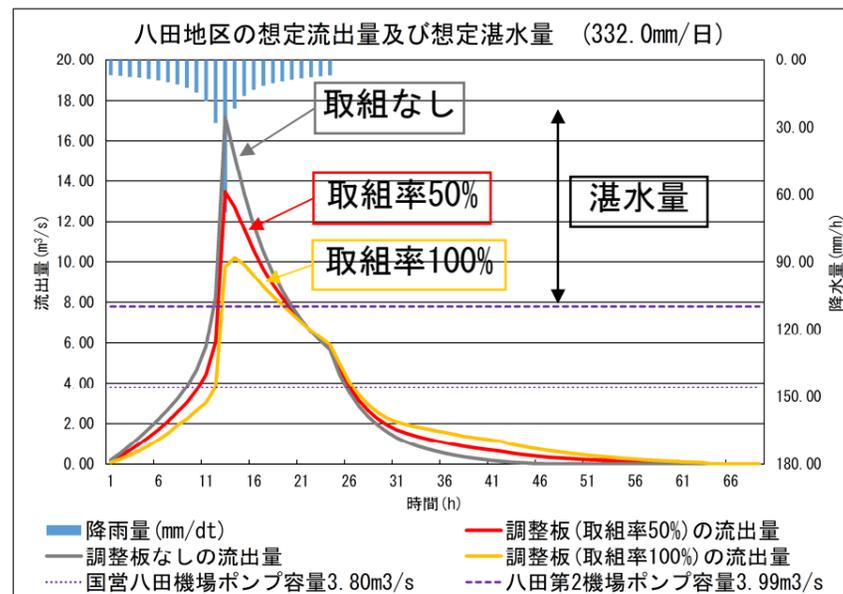


図5：検討した想定流出量の推移と湛水量

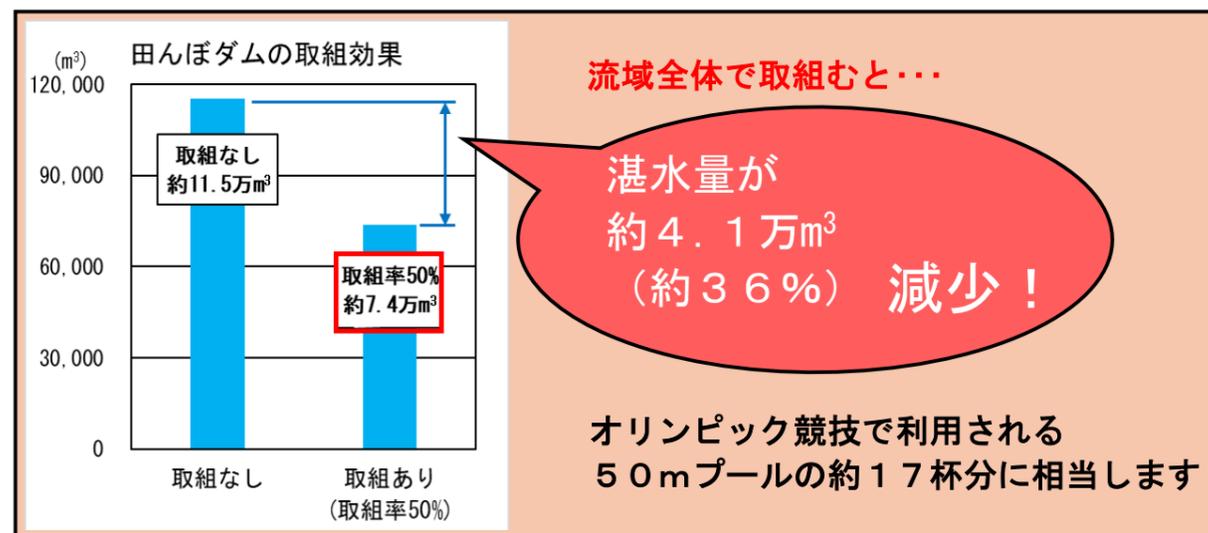


図6：取組効果

※本検討は、八田地区を対象として、金沢市で湛水被害のあった令和7年8月7日の日降水量(332.0mm/日)が降った場合の想定流出量及び湛水量を試算しています。また、時間雨量は物部式を用いて降雨強度を算出し、中央山形の降雨パターンを設定しました。